

つちまるポイント

- ・土浦市の30～50代で「ほとんど運動をしていない」人の割合は過半数
- ・今より1日1歩多く歩くと0.072円ほどの医療費抑制

➡ 健康ポイント制度を導入

事例：宇都宮市健康ポイント



- ・フェリカポケットマーケティングにアプリ開発を委託→約2000万円
- ・1つちポ=1円
- ・中心市街地、健康施設小町の館で利用可
- ・歩数や体重の計測、検診の受診でポイントが付与

効果

- ①健康的な生活を促す
- ②土浦市への関心を高める
- ③市内での消費行動や交流を促進

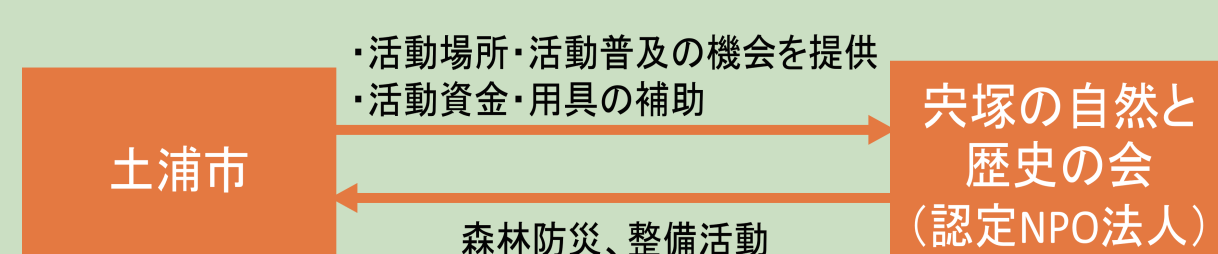
森林活動促進

- ・里山付近の土砂災害警戒区域が整備が必要
- ・林業就業者が7人のみ

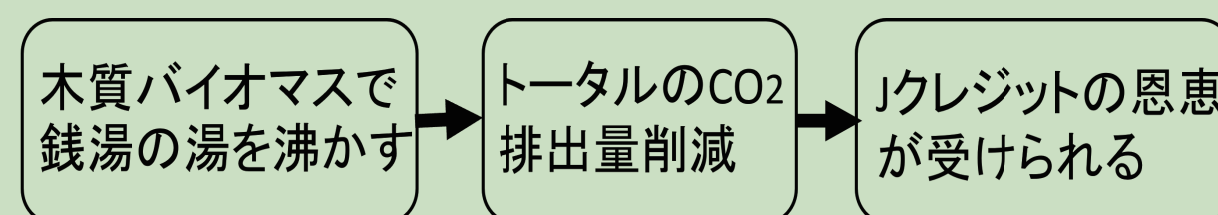
➡ 市民参加の整備と木材の地産地消

効果

- ①森林整備の促進
- ②景観や防災性の維持
- ③森林コミュニティの広がり
- ④環境への貢献

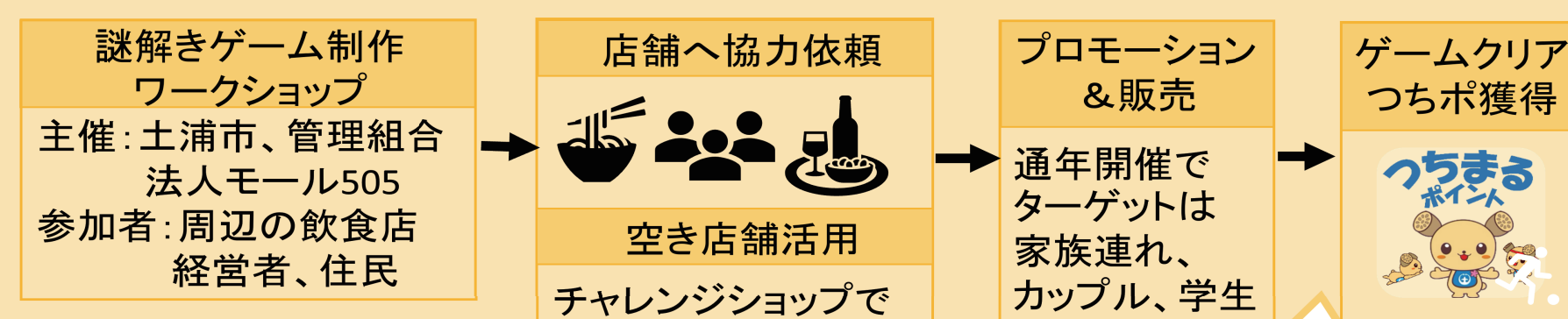


- ・木材を雑貨にして販売、おおつ野の入浴施設で利用など



・クレジット制度：温室効果ガス削減分をクレジットとして売却することで資金援助が受けられる制度

謎解き街歩き



費用 1店舗につき改装費
150万円

費用 **330万円** 制作費：140万×4回
広告費用：150万
(年つちポ付与分：20万)

- ・市役所や図書館が駅直結で人が流れず回遊性がない
- ・空き店舗増加による廃墟感

➡ 市民のお出かけ先として選ばれる中心市街地に

効果

- ①地元住民を巻き込める
- ②お店の再訪の機会ができる
- ③まちなか周遊促進
- ④チャレンジショップの出店者が増加

都市計画マスタープラン演習 5班

Healty いいとしい 土浦市

班長：小野寺七海 櫻井隆之介 早坂遼
八木原愛乃 石川夏帆 TA：下妻康平

新治

恵みをもたらす里山の下で心地よく過ごす

北部

産業を維持すると共に健康増進の拠点となる

中部

歩いて暮らせる賑わいの中心となる

南部

駅を中心としたコミュニティ空間

市全体の理想像

地域資源を活かし市民が愛着を持って
都市も市民も健康になれる街

ちょこっとつちチャリ

- ・土浦駅にHELLOCYCLINGのステーションが1ヶ所あるが土日祝日に利用が集中、8割が県外からの利用
- ・長距離サイクリングのみの想定

➡ 気軽な移動手段としてのシェアサイクル導入を提案

効果

- ①自動車の代替交通手段
- ②環境負荷低減
- ③健康的な生活を促す
- ④都市のコンパクト化

ステーションを駅周辺各地に



項目	費用(万円)
自転車費用(35台)	700
ステーション設備費用	150
その他初期費用	200
合計	1,050

ヘルスタウンおおつ野

- ・2016年に土浦協同病院が移転開業
- ・市中心部との路線バスによるアクセスが悪い

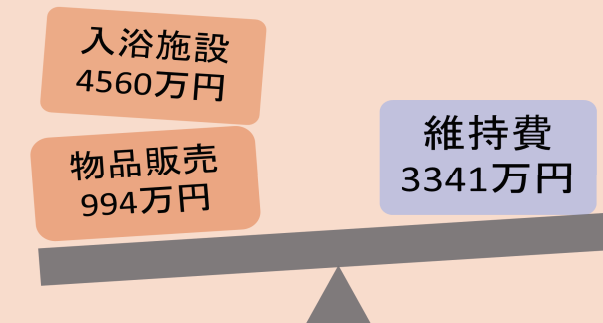
➡ 健康の拠点となる施設を建設し市民を集める

効果

- ①健康的な暮らしを促す
- ②駅～協同病院のバス利用促進
- ③コミュニティ活動の場となる



- ・費用は2213万円の黒字となり初期投資4億円を約18年で回収



駅前駐車場活用

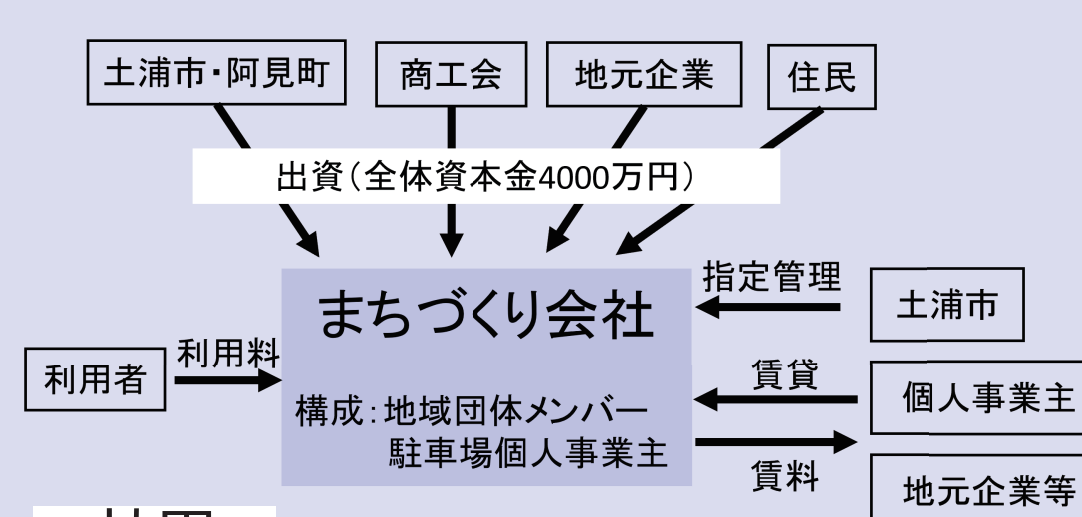
- ・荒川沖駅周辺に駐車場がばかりが広がる
- ・商店が減少し人が集まらない

➡ 駐車場の有効活用で駅前に賑わいを取り戻す

事例：水島パーキングデー



- ・まちづくり会社を設立し駐車場を各事業主から賃貸一括管理



効果

- ①駅前駐車場管理を効率化
- ②地元の雇用創出
- ③鉄道駅がない阿見町にも効果有